

同調型カウンセリングからの脱却

新武雄あおぞら葎科クリニック

村石 美鈴

思えばカウンセリング業務に携わる事になり早三年。トリートメントコイテイネターの位置づけと既にカウンセリング体制が確立している有難い環境。そして、スクール卒業生である先輩方の元で私のＴＣ人生はスタートした。

初めてカウンセリングを見学した時、言葉にできない感動と鳥肌が立つくらいの衝撃を覚えた。診療室では見せる事のない患者のリアリティな表情。丁寧で分かりやすいＴＣの説明。心地よい雰囲気の中でたびたび起こる二人の笑い声。自然と私も引き込まれ気が付けば一緒に笑い声をあげていた。雑然とした日常の診療室では決して作り出す事のできない空間に魅了された。

ある日のカウンセリング。担当ＴＣから伝わってくる緊張感。この日はフルマウスのイ

ンプラント治療計画と見積もりの提示。当時
 何も理解していなかった私は許可を貰い、い
 つものように同席し、驚嘆した。張り詰めた
 空気、息が止まりそうな空間に思わず目を伏
 せた。想像を絶するような大掛かりな治療、
 それに伴う治療費。患者の悲痛な表情に目を
 向けられなかった。そんな私とは違い、優し
 く寄り添いながら一つ一つ丁寧に説明する丁
 子。長い長い沈黙からポツリポツリと質問を
 投げかける患者。必死で向き合おうとしてい
 るのが私にも伝わってきた。四十代の女性。
 「お子さんいるんだろうな」「こんなフルマ
 ウスの治療恐いだろうな」「金銭的にさつ
 だらうな」「でも絶対に入れ歯は嫌だよね」
 そんな事はかり考える私。重い空気が流れる
 中、丁子の放った一言でその空気が一変する。
 「この計画でよろしければ自信をもつてでき
 ます」「一筋の光が差しこむとは、まさしく
 いう事だ。落胆が希望に変わった瞬間だ。た
 長い間口の中で苦勞してきた患者。藁にもす

がる思いで当院へ来たはずだ。全て自分の歯を失なう現実。与えられた究極の選択。何も分からない不安。どうすればよいのかという迷い。負の思いで張り巡らされた奮闘気の中、この力強い一言で明るい未来が見えた気がした。

患者を見送った私は、体が震え涙が止まらなかつた。後日この患者は、提案したベストプランを選択され今も治療は継続中だ。後にも先にも私の中でこのカウンセリングを越え

るものはない。患者に寄り添い、患者の気持ちに共感し、一緒に考える。そして道しるべを示しそつと背中を押してあげる。どれだけ患者にとつてバ強い一言だったろうか。強く!!優しく!!か?こよく!!
鈴木先生がスクールの理念にも掲げておられるTC像。未熟だった当時の私が感銘を受けたカウンセリングにその姿があつたのだ。これが私の原点。そして理想のTC像だ。今でも思い出すたびに涙が溢れる。

あれから三年。一生懸命勉強した。手探りで患者と向き合いながらもカウンセリングが楽しくて仕方なかった。「こんな説明して貰った事ありません」「聞いてくれてありがとうございます」「ここに来てよかったです」「こんな言葉が励みになった。鈴木先生のセミナーや講義で多くの事を学んだ。知識と引き出しを少しずつ増やしながら経験を積んでいった。患者の声に耳を傾け、一緒に悩み考え、様々な話を聞きながら患者と二人で涙した日もあった。TC業務に携わるようになり、患者に対する思いがより強くなった。

その一方、何かが違うと感じてきた。何か分からないが、経験を積み重ねる程思い通りにはいかない。何か足りない。次第に迷いとなり、自分らしいカウンセリングができてきた。なった。患者と話すのが苦しくなった。そんな中、念願のTCスクーを受講する事になった。今までの自己流カウンセリングを捨て、真っ白な気持ちで勉強した。そうし

て見えてきた私に足りないもの、それは「強
 さ」。患者を想う余り、一緒に悩み、一緒に苦
 しみ、時に一緒に涙する。とにかく患者の声
 に共感する。私のカウンセリングは優しさだ
 けのTCが行う同調型カウンセリングなのだ。
 そこに「強さ」はない。希望や明るい未来へ
 向かう道しるべを示す事ができない。導く事
 ができない。見守るばかりでそつと背中を押
 してあげる事ができない。「強さ」がなければ
 ほそこに不当の「優しさ」はないと分かった。
 スクールの受講した事で、やつと自分が見え
 てきた。
 そんな私の口腔内は粗末なものだ。叢生に
 よる歯列不正。学生の頃に治療したのであろう
 メタルだらけの白歯。歯科医療従事者であり
 ながら今日まで改善する事なく過ごしてきた。
 ハ重歯がチャームポイントと言うドラファも
 いた。セウミツフにしたいと言ったら、メタ
 ルの方がいいと言うドラファもいた。これが
 歯科医療の現実だ。そして国民皆平等の精神

である保険制度が、国民に誤った認識を与えている。長年、歯科衛生士として勤めてきた私がそう知ったのは今のクリニックへ入職した五年前だった。それ以来コンプレックスは変わった。恥ずかしい、キレイにしたい。そう思いながらも様々な事情でなかなか実現する事ができなかった。私の背中を押してくれたのは、スクール初日での鈴木先生の一言。「本気でカリスマTCを目指すのであれば、まずはセルフマネージメントに迷う事はなく決断した。今、矯正治療に向けて動き出している。

真の健口を目指すのであれば、生涯診断・生涯カウンセリングでなければならぬ。咬合再構成、二十八本咬合の大切さ、保険治療の不利益、予防の大切さ。患者は何も知らない。今、日本の歯科医療では患者教育が求められている。その役割を担うのがTCだ。これからも身をもって伝えていきたい。

「強く!! 優しく!! かっこよく!! されいな

スマイルラインを手に入れた時、理想のTC
に近づいているだろうか。一人一人の患者と
丁寧に向き合い、自分らしい慢しさも忘れず
強くかつこいいTCでありたい。そして一人
でも多くの方に本当の健口を手に入れて健康
な人生を歩んで欲しい。私の本当のTC人生
は、まさにこれからだ。